

千葉県福祉サービス第三者評価の評価結果

1 評価機関

名 称	特定非営利活動法人 ライフサポート樂樂
所在地	〒289-2516 千葉県旭市口1004-17
評価実施期間	平成 22年 1月 8日～平成 22年 3月 25日

2 評価対象事業者

名 称	旭市立中央第三保育所	種別： 保育所
代表者氏名	旭市長 明智 忠直	定員 90名（利用者人数）： 106名
所在地	旭市イ1835	TEL 0479-63-7700

3 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

<p>◆ 特に評価の高い点</p> <p>昭和54年開所の公立保育所であり、旭市内の市街地にあります。</p> <p>1歳児～5歳児までの94名の園児と支援センターでは、15名～30名の児童を受け入れていると共に地域子育て支援センターとして育児相談・育児講座・子育てサークル等地域のニーズに対応するサービス機能を有しています。</p> <p>「組織は人なり」特にヒューマンサービスである福祉分野においては、一番の経営資源は、サービス提供者たる職員です。保育所には、職員の活気と明るさがあり人的サービス提供の環境が訪問調査時に肌で感じました。以下保護者アンケート、訪問調査並びに職員面談を通して特に優れている点は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 所長の人間性とリーダーシップ、保育経験と運営能力が職員並びに子どもと保護者等に広く浸透して明るい職場環境と管理体制が構築されています。2) 子どもの安全性に対する保育所と保護者とのツーウェイコミュニケーション、つまり双方向の意思疎通がなされている事は、保護者の満足度を高めています。3) 入所に際しては、「しおり・掲示板」等で説明しています。日々の連絡は、保護者から「おたより帳」等で連絡を取っています。4) 保護者が子どもの満足度について高い評価をつけている点が、日頃の保育サービスの質的維持・向上のために組織として取り組んでいると推察されます。5) 当保育所は、地域子育て支援センターを併設、障がい児の受け入れや育児相談、育児講座、子育てサークル(二歳児、三歳児、療育)等地域児童福祉サービスの拠点的役割を担っています。
--

- 6) 研修派遣職員の報告勉強会や医療機関の小児科医師との定期的指導を通して研鑽を重ねているので、職員の意識レベルも高いものがあります。
- 7) 年度始め、月例の職員会議等が定期的実施して、職員の意見を吸上げているので意思疎通が十分図られています。また保育の目標についても職員間の協議を経て年度計画が立案されていることは、目標の共有化が伺えます。
- 8) 子どもの安全に対しては、各種マニュアル化図られています。またサービスの個別支援計画の記録管理が整備され、職員の行動規範として励行されています。
- 9) 広く実習生の受け入れや地元小・中学校生徒の体験学習等も行っております。
- 10) 園庭開放時には、玄関ホールに子どもが目につくように遊具が置かれ、すぐに遊べてとても喜ばれています。

◆ 特に改善を求められる点

保育環境としては広々とした園庭もあり、施設ハードとしては子どもの発育環境として問題はありません。サービスのソフト面で以下気づいた点を記します。

- 1) 入所のしおり（苦情・コンプライアンス等）に項目を入れることが望まれます。
- 2) 年度初めに保育所の課題の抽出と各職員の自己目標等により、課題の克服ができたのか否かを共有する事が、サービス向上への取り組みと考えられます。
- 3) 民生委員や児童委員等との連携をとり、地域福祉サービスを心がけて行かれることを望みます。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント（受審事業者の意見）

第三者評価を受けるにあたり、全職員で日頃行なっている自分達の保育を評価項目に従い見直して見ました。接遇・マニュアルの再確認等について、一つひとつ勉強する機会が持て、保育士一人ひとり意識の向上に繋がりました。

実際に利用者がどのように感じているかを調査する保護者アンケートでは、緊張しましたが、日頃の保育サービス成果を確認することが出来ました。

今後の課題も明確になりましたので、更に研修を充実させ保育サービスの向上に繋がるよう努力していきたいと思えます。これからも、子ども、保護者一人ひとりに寄り添い、温かな保育所を心がけ細やかな保育をしていきたいと思えます。

5 事業者の特徴（受審事業者の意見）

第三保育所は、旭市子育て支援センターが併設しています。“子どもは、社会の宝、地域と一緒に子育てを”を理念に保育相談子育てサークル、療育サークル、一時保育、園庭開放等の事業を実施しています。日々活気あふれる保育所です。

専門の医師と連携をとりながら、ハンディを持った子どもの受け入れも行なっています。“共に生きる社会”ということを幼児期から感じて欲しいと職員一同日々努力しています。